

ウズベキスタン南部ファヤズテパ遺跡出土壁画の公表に向けて－2018年度－

はじめに 奈文研国際遺跡研究室は、2003年度からアフガニスタン・イラクおよび周辺諸国の文化遺産保存修復に関わる事業を東京文化財研究所と共同で実施してきたが、近年は中央アジア諸国への協力が中心となってきている。本稿では、ウズベキスタン南部のファヤズテパ遺跡で出土した壁画の公表に向けて、2018年度に実施した作業の概要を報告する。

ファヤズテパ遺跡 ファヤズテパ遺跡はウズベキスタン南部のテルメズ市の北郊に残る仏教寺院址で、カラテバ仏教遺跡の北東1kmに位置する。1968年から1976年にL. I. Al'baumによって発掘され、長方形のプランを持つ僧院(118×34m)と仏塔から成ることが明らかにされた。2002年から2006年に遺構の保存修復作業が実施された際に、補足的な発掘調査がおこなわれ、遺構の平面図が新たに発表された(平面図は『紀要2018』p.16参照)。

また、出土した土器の銘文やコインの年代をもとに、この施設はクシャーン朝期(1~3世紀)を通して仏教寺院として機能したが、5世紀前半には衰退し、その後は墓地として二次利用されたと推定されている¹⁾。

ファヤズテパ遺跡出土壁画 僧院は南東部分(A)、中央部分(B)、北西部分(C)の3つの部分から構成され、中央部分には20ほどの僧房が中庭を取り囲むように配置されている。壁画は中央部分の入口(B19)から入って正面に見える部屋(B8、6.4×6.2m)とその部屋の入口付近から発見されている。B8室を飾っていた壁画については簡単な報告があり、また描起図が発表されている²⁾。それによれば、右壁には男性供養者群像が、左壁には仏陀を礼拝する女性供養者が描かれていた。しかし、部屋の入口周辺で発見された壁画については報告がなく、また描起図も発表されていないため、どのような壁画が見つかったのか不明である。

壁画の保存修復作業 2016年度には、B8室の入口付近で発見されたと推定される4点の比較的小さな壁画断片に対して、裏面の強化処置や表面のクリーニングなどの保存修復作業をおこなった(『紀要2017』参照)。その後、4点のうちの2点の断片と別の1点が互いに接合するこ

とが判明した(図18)。そのため、別の1点の断片の保存修復処置をおこない、3点を新しい支持体に設置(マウント)することにした。作業はウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所保存修復室の室長Marina Reutovaと、室員のGulnora Ahadova、Gulbahor Pulatovaがおこなった。

新しい支持体には、軽量だが強度のあるハニカムパネル(芯材はアルミニウム、表面材はガラス繊維強化プラスチック)を使用した。砂とパラロイドB72アセトン溶液(25%)を混ぜてペースト状にしたもの用いて、壁画断片をパネルに接着した。パネルの表面が見えている部分には、チョークと黄土(レス)を3:1の割合で混ぜたものにAcrl-33水溶液(50%)を加えてペースト状にしたもの塗布した。断片と断片の隙間には補彩をおこなった(図19、20)。

壁画の図像 修復が完了した壁画断片は青を背景とし、画面右側には赤または白のキノコ状のものが四重になっている様子が認められる。上方から白と赤の帯状のものが、たなびいている。これは仏塔の上部に取り付けられた傘蓋の一部であると考えられる。同じような形状の傘蓋を持つ仏塔のミニチュアが、ガンダーラの2~3世紀の仏教遺跡から出土している(図21)³⁾。画面左下には、より小型の仏塔二基が建ち、同様の赤と白の傘蓋、その下には平頭(ハルミカ)と伏鉢の一部が認められる。ガンダーラのラニガト遺跡などでは、仏塔のまわりに小型の仏塔がいくつも建てられ、その後、仏塔と小型の仏塔群を覆うかたちで、より大きな仏塔が建てられたことが確認されている⁴⁾。ファヤズテパ遺跡の壁画に描かれているのはそのような仏塔群かもしれない。また、ファヤズテパ遺跡の仏塔の正面階段の両側で見つかった遺構は、小型仏塔の基壇であると推定されている。

今回、新たに公表された壁画は、中央アジアの初期の仏塔の構造を検討する上で、重要な資料となるだろう。

なお、本稿で報告した壁画断片の保存修復は、文化財保護・芸術研究助成財團の事業助成を受けて実施した。

(影山悦子・Berdimuradov Amridin／ウズベキスタン科学アカデミー考古学研究所・Kazim Abdullaev／イスタンブル大学)

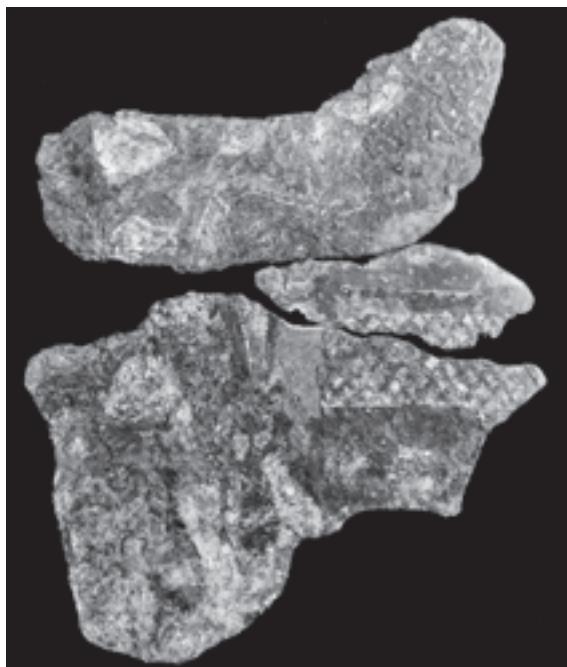


図18 仏塔を表す壁画（マウント前）



図19 仏塔を表す壁画（マウント後）

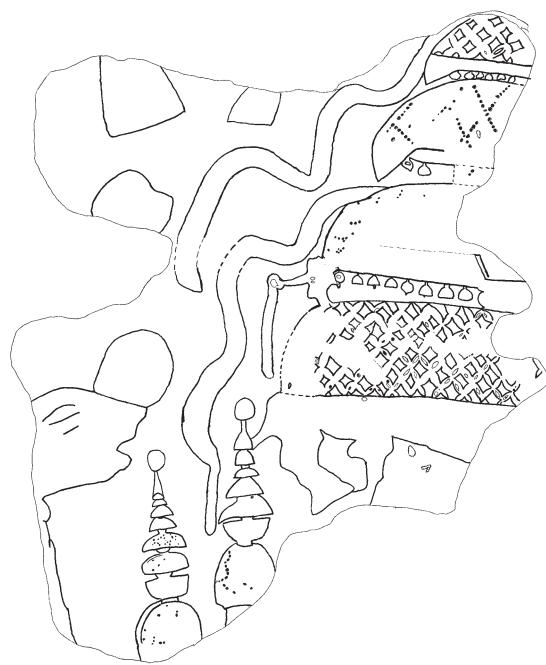


図20 仏塔を表す壁画（描起図）



図21 ガンダーラ出土仏塔ミニチュア

註

- 1) Pidaev, Sh., T. Annaev, G. Fussman, *Monuments buddhiques de Termez I: Catalogue des inscriptions sur poteries par G. Fussman*, Paris, 2011.
- 2) Al'baum, L. I., "Živopis' svyatilišča Fajaztepa", G. A. Pugačenkova, *Kul'tura Srednego Vostoka*, Tashkent,

1990.

- 3) 田辺勝美・前田耕作『世界美術大全集』東洋編 15 中央アジア、小学館、1999。
- 4) 西川幸治「ラニガト：ガンダーラの仏教遺跡」『仏教芸術』319、2011。